

## 外国人雇用 定着へ指南 西成でセミナー、事例紹介

2021年7月9日

あいりん地区で職業紹介や労働相談を担う「西成労働福祉センター」（大阪市西成区）は8日、外国人の就労支援を手掛ける「Y O L O（ヨロ）ジャパン」（同市浪速区）と共同で、同センターを会場に「外国人雇用セミナー」を開いた。少子高

齢化の進展に伴い、労働力人口が先細りする中、外国籍の求職者に着目した。

講演では、ヨロジャパンの西日本エリアマネジャーで、外国人実習雇用士の木林真俊さんが、職場でのコミュニケーションの手法に、ピクトグラム（絵文字）や動画を活用する事例を紹介。



外国人雇用に関する情報を収集しようと集まった企業の採用担当者ら＝8日、大阪市西成区

人材を定着させるために、多国籍の人材を

採用して日本語を“公用語”とし、語学力の向上を促す事例も取り上げた。

セミナーには、7社の担当者が出席。同市西区に本社がある建設業の男性役員（50）は「入札や天候に応じて日々仕事量が左右されるので、海外の人に細かい説明を理解してもらえるのか。外国人材の必要性は感じているが、雇用にはまだまだハードルが高い」と話した。

労働政策研究・研修機構の推計によると、2014～30年までに日本の労働力人口が約800万人減少すると予測。高齢者や女性、在留外国人の就労参加が期待されている。